

(4) 北野田C遺跡

所在地 豊田市蕪木町北野田地内
(北緯35度1分31秒
東経137度17分14秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業

調査期間 平成29年5月～平成29年8月

調査面積 850㎡

担当者 尾崎綾亮 岡田浩季

調査経過 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う事前調査として、愛知県企業より委託を受けて実施した。平成26年度の範囲確認調査の結果、850㎡が遺跡の範囲に指定され、今回調査を行った。



調査地点 (国土地理院1/2.5万地形図「東大沼」)

立地と環境 本遺跡は、郡界川の支流である蕪木川の流域に所在している。遺跡は丘陵の南向き斜面に立地している。調査前の状況は、山林化した4段の旧耕地であった。標高は海拔360m～367mである。周辺の遺跡として、125m北西に北野田A遺跡、20m北に北野田B遺跡がある。

調査の概要 今回の調査では、中世・近世・近代の遺構・遺物を確認した。

中世の遺構としては、調査区を南北に走る自然流路 (003NR) と 30基ほどの柱穴群、自然流路 (003NR) 谷底に杭で固定された焼け跡のある木材と石の集積 (074SX) が該当する。

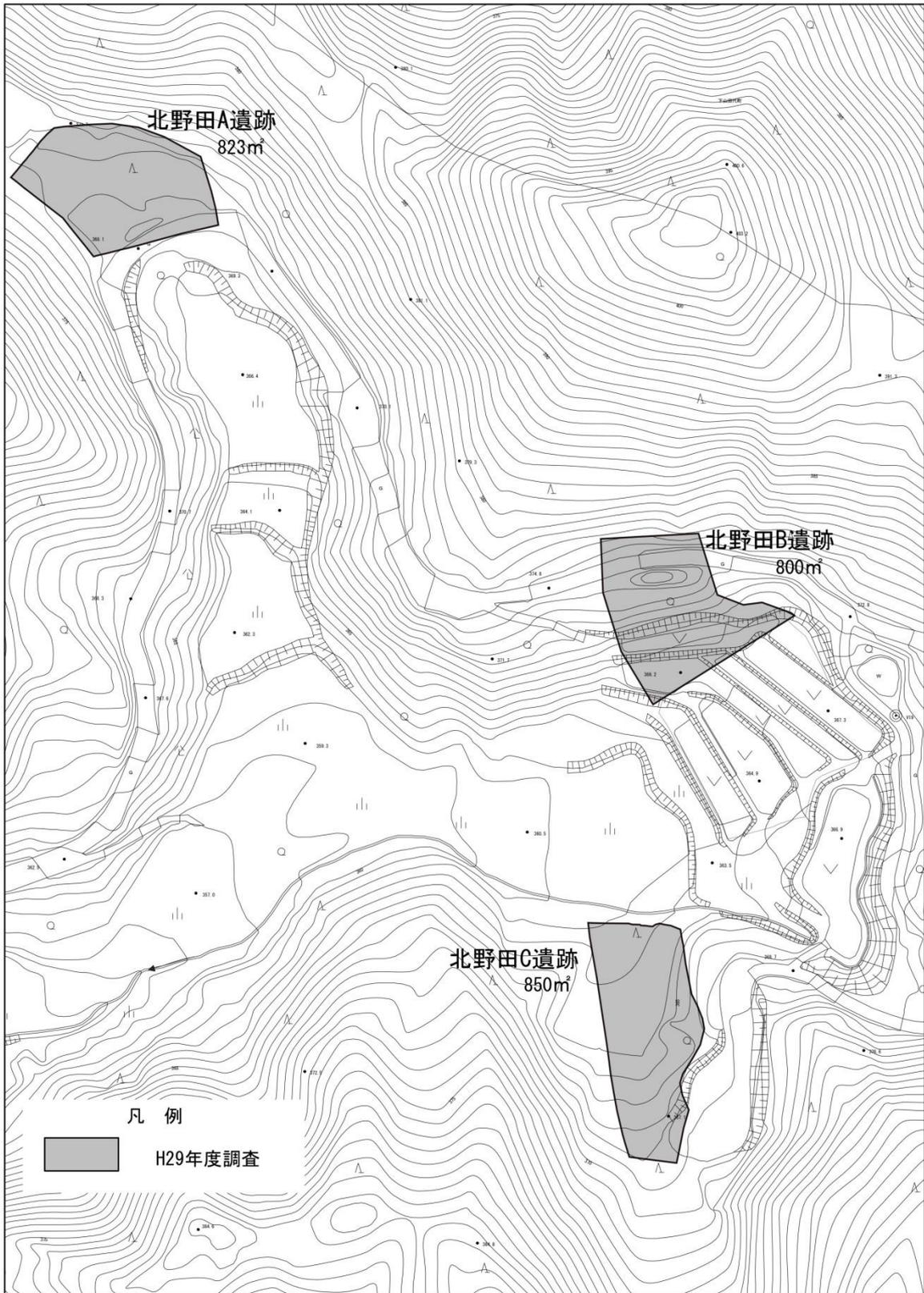
自然流路 (003NR) は検出面からの深さが約1.8mあり、調査区中央部より北に向かってラッパ状に開口している。主な遺物は染付碗破片、山茶碗 (尾張型7・8型式)、砥石、青磁碗、木質の分割材・板材などがある。出土遺物に古代に属するものが存在しないことから、中世から自然流路 (003NR) は利用されており、堆積後は耕地として利用されていたことが分かった。

柱穴群は調査区東側の緩斜面部で検出された。掘立柱建物が建っていたことが分かり、掘立柱建物も中世の自然流路 (003NR) に関連する建物と考えられる。

現代の遺構として調査区南端では炭焼窯 (001SY) が検出された。内部の壁面は赤く硬化しており、大量のタールが付着していた。煙道からは現代の土管が出土している。

まとめ 低湿地を挟み北側緩斜面部に北野田B遺跡が所在している。平成28年度の発掘調査で北野田B遺跡からは大量の中世の木製品が出土している。今回の成果から北野田C遺跡も同時期の木製品生産加工に関連する遺跡と考えられる。

北野田C遺跡の存在する場所は古代から中世にかけて高橋新荘 (大覚寺統系荘園) が存在していた。高橋新荘の本家・領家などの特許状を得たワタリ集団の生産活動の可能性も考えられるので、このことも視野に入れて今後得られる資料と比較・検討を行い、中世山間地での生業の実態を考えていきたい。 (岡田浩季)



北野田 C 遺跡位置図 (1:1,000)



北野田C遺跡全体図(1/100)



北野田C遺跡全景写真



自然流路003NR（調査区南から北へ向かって撮影）



自然流路003NR (調査区東から南北方向撮影)



自然流路003NRの木材と石の人工物074SX
出土状況



調査区東側の緩斜面部のピット群



炭焼窯001SY